

「平成 24 年度 保育セミナー」報告書

【期 日】 平成 24 年度 2 月 10 日(日)

【会 場】 マリトピア

【主 催】 佐賀県保育会

【参加者数】 79 名

【内 容】

『子どもたちに伝えていこう日本の伝統文化～能楽～』

講師 能楽師 多久島 法子氏

○「能」について

もともとは猿学

鎌倉時代「田楽」となり観阿弥、世阿弥が能楽を大成した。650 年以上続く文化。
ユネスコ世界無形文化遺産に第 1 号で認定された。

○「能」の特徴

能面：大飛出(おおとびで)…狐の神、霊気のかかった役に使われる。

猩々(しょうじょう)…妖精、海の中に住んでいるお酒が大好きな女性。

大癒見(おおでしみ)…天狗

般若(はんにゃ)…女の鬼

同じ面(おもて)ですべての感情(表情)を表現する。

能曲：氷室(ひむろ)

歌占(うたうら)

熊野(ゆや)

和布刈(めかり)

250～300 曲ある。

初番目物：脇能、神能、 高砂(夫婦円満の歌)

二番目物：修羅、戦

三番目物：鬘物(かずらもの)、夢幻能

四番目物：雑物、隅田川、葵の上

五番目物：切能

世阿弥が作ったものが多い。「風姿花伝」

※能は囃子、謡、舞でできており、超簡素表現の芸である。観る側の想像力が必要。

心と技が合わさり花になる。

○謡「高砂」と皆で謡う。

お腹から声を出し、声の伸ばし方、音程の上げ下げ、なかなか難しかったが楽しめた。

○現在の活動

いろいろな場での能舞台を踏みながら、能を子どもたちに広める為、能の物語の紙芝居を製作中。小学生に謡や詩舞の稽古の教室を開いていच्छる。

○舞「羽衣」



・天女が天井へ帰っていく様子

○舞「屋島」



・お父様も舞を披露して下さい。
一の谷の合戦
修羅物、戦いのシーン

○質疑応答



Q：面について？（面の名前、面をつけての視界はどうか等）

A：ほとんど見えない。うつ向くと淋しげな表情になり、少し見上げると明るい表情になる。面をキルことで激しさを強調したりひとつの面でどんな表情もできる。

Q：能、狂言、歌舞伎の違いは？

A：能と狂言は兄弟のようなものである。どちらかというとならば狂言は風刺をメインにしてお笑い傾向にある。どちらも老松(神様)の幕の前で演じられ、心の動きや神を敬う心を奉納される。歌舞伎は能、狂言の300年後に民衆の中から生まれたお芝居。その中でも松場面物は能の物語等をお芝居にしている。

○効果及び評価

日頃、なかなか触れる機会がない「能楽」を解り易く解説して頂き、日本の伝統文化の素晴らしさを知ることができた。保育と直接関係するものではないが、能の見方として、「想像力を働かせて見る」「心の内を見る」これは保育の場でも通じるものがあり、このセミナーで自身の感性も磨かれ、高められたように思う。感受性の育つ幼児期にこのような日本の伝統文化に触れることの大切さを改めて感じた。

文責：多良保育園 森田 明子